

海 (かいし) 市 No. 16

● 詩

02 横山 仁 生活の柄 11

04 前田 勉 捲 れ

● エッセイ

08 細部俊作 二つの山小屋で (1)
～蓼科山、東山山行～

12 佐藤ただし 水田とツバメ (14)

15 横山 仁 雑記 (16)

生活の柄 11

横山 仁

深夜、眠れない老母はテレビを付けてながめている。耳も遠くなっているので、うごいている映像をみているだけだ。

ある日、モノクロの画像からきこえてきたのは、「母親の帰りを待つことばがある」だった。なぜ、ことばは母親を待つのか。

かえり船で父はなにを思っていたのか。石原吉郎が故郷で親族から言われたのは、「私が『赤』でないことをまずはっきりさせて欲しい。もし『赤』である場合

はこの先おつきあいをするわけには行かない」「肉親へあてた手紙」より）という狂った言葉の数々。父らは、故郷でどのように受け入れられたのか。言葉は、もうない。

ココロ ハ ソコニアルノニ

コトバ

ガ トオイ

捲めく れ

前田 勉

弾け飛ぶ気泡のような
増幅された光の束が
ようやく

部屋の隅に届き始める

朝

数えあげてみた幾日かの夢をひろげ
端と端

の

つなぎ目を探す

それは一枚のセロファンに似て

淡く消えかけた端が捲れては
重なり
隠れてゆく
それぞれがそれぞれに
繋がることを拒むかのように

色や時間

急展開する華やかな物語

空飛ぶべらや^{*}

日傘の女も^{*}

思いがけない

時

を潜^{くぐ}って

クルリと捲れて

消えた

そうして

時間は流れていた

そのようにあるのだと知りさえすれば

物事の端と端に掴まって

クルリと捲れ

消えてしまうことだって

できたのかも知れない

*ベラ・シャガール

*モネの絵

二つの山小屋で（二）

（ 蓼科山、車山山行 ）

細部 俊作

□ 蓼科山へ

一〇月も半ばだったが、八ヶ岳のなかでも北端にある蓼科山と、霧ヶ峰の西端にある車山に登るべく出かけた。ザックの中には重ね着や防寒衣を加えてある。一日目は長野県茅野市内に宿をとった。もとは割烹旅館だったが、近くに運動公園が出来て以来、スポーツ合宿にくる学生向けの宿泊施設に模様替えした感じだった。翌朝七時に宿を出る時、女将から行く先を尋ねられて蓼科山だと答えると、ああお山ね、という。地元の人が「お山」と呼びならわす山はあちこちにあると思うが、茅野市内では蓼科山がそれなのだろう。ガイドブックには左右対称形の山であることから通称

諏訪富士だと記されていたことも思い起こした。

途中、コンビニで昼食とおやつを調達。ペンションや別荘地のなかを通り抜け、ロープウェー乗り場の付近を通過し、四五分で標高一七二〇mにある登山口に着いた。すでに多くの車があった。

支度を終えて八時過ぎに出発した。晴れて爽やかな風が笹原のなかを吹いてくる。東北の山と比べてクマの出没する危険はかなり低いと思っている。勝手に。一人登山のリスクはいろいろあるものの、クマとの遭遇の心配から解放されて登れることはうれしく、思わずニヤけてくるのだった。オオシラビソの香りの中を登高していくうちに、風は強まり、さらに高度を上げ、クサリやロープにしたがって右から左へと巻いていくと山頂部に到着した。そこから南八ヶ岳の山々がくつきりと見えた。ああ、向こうも晴れている。数年前に登った横岳や赤岳も視界に入っているはずだが、見分けがつかない。この山頂部は岩石だらけで、野球場一つくらい平坦地になっていて、その中に標高二五三〇mの標柱があった。一一時四五分だった。

風が強かったので、山頂ヒュッテでズボンの下に



タイツをはいた。その後、大河原峠へ下り、双子山頂を経て、大岳、北横岳の足元にある双子池の方へ下った。双子池山荘に着いたのは午後三時半だった。

□双子池山荘にて

この山荘は雄池、雌池の中間に建っている。先着組はもう山荘の前の広場で談笑したり、ビールを飲んでいたりしている。それを見るとこつちもぐずぐずしてられない気持ちになる。山荘前のベンチでビールを飲みながら山をみる。その辺りだけ夕陽を浴びた紅葉が湖面に映って、いやはや、山のなかでこんな秋色を眺められるとは思ってもしなかった。

大広間では雑魚寝だが、壁際に畳んだ布団が一五人分並べられ、対面する壁側にも整えられている。私があてがわれたのは、奥の布団だまりのようなスペースの近くで、傍らの引き戸を開けるとトイレになっている。

左隣は東京から来たという年配の男性だった。北八ヶ岳ロープウエーを使って北横岳経由でこの山荘まで下ってきた。明日は、今日私が辿ってきたコースを

逆に登るといふ。百名山はもう四〇座登った。ある山ではバランスを崩してしまい、危うく崖から滑落しそうになったが、傍にいた人から支えられて事なきを得た。このズボンはそのとき履いていたものです、いつて見せてくれた。タテに長さ三〇センチほどの裂け目を縫っていたが、何とも痛ましい具合になっていた。術後の縫合跡のように見えたのだ。冬もテント泊をやるらしく、今回はツェルト持参で来ました、あなたも携行するようにした方がいいですよ、と勧められた。百名山クラスの山ともなれば、ジバークの準備は必要だろうなあ、と思った。その人、七二歳だということから驚く。思わず、七年後の自分もそうありたい。いや八〇歳になっても登山をしたい、と口にした。

二人で話していると、入口の方から若い女性の二人連れが私の右隣りの布団だまりの方にやってきたかと思ふと、すぐに踵を返して出口の方に戻っていったのが目に入った。しばらくしてから、向かいの列の布団の方で、若い男女数人が何か話していた。さっきの女

性の二人連れは、予約もなしに来て泊めてほしいということだったが、何やらピラタスリゾートのペンションに帰るといつて、急に出て行った。山小屋の主人はたいそう立腹していたという。こんな五時になるうとしているときに竜源橋まで降りていくなんてできっこない。日中ですら二時間半かかるのに、これから三分もすれば暗くなるし、竜源橋からピラタスまでだつて一時間もかかるだろう。山中に泊まる用具もないようだし無謀だ。これは遭難ですよ。そんな話だつた。それから彼らは別の話題に移つていったようだつた。

夕食は野菜の天ぷらと豚汁、それに漬物で、いたつてシンプル。豚汁はお替り自由だから、まあ、こんなもんでしょ。夕食後も隣りの人と話していたが、話題も乏しくなり、さっきの二人連れのことが話題に上ることもなく、布団に足を入れてるうちに温まってきたので、まだ七時半だつたが眠ることにした。トイレの近くとあつて臭い。それでもいつの間にか寝入つていた。

朝食は五時半から。ワカサギの甘煮一尾がメイン

ドイツシュで、他はちよこちよこつとしたもので、今朝もシンプル。ま、こんなもんでしょ。昨日の豚汁がまだ残つていて、自由にどうぞという。ただ、自分はさほど空腹でもないのどトレーに載っているものだけで満足だつた。昨日のうちに頼んでおいた昼食用のオニギリ二個を受け取り、ザックに入れた。隣人もオニギリを頼んだらしいが、完売だと言われたらしい。そして、別れ際に互いに名を名乗つた。彼はこれから大河原の方へ行くという。あんな感じのいい人と出会えてよかつた。いつか再びどこかの山で会えるといい。

山荘の前で少しゆっくりしてから七時過ぎに私も出発した。

昨日、双子岳から山荘へ向かつて下つていくときに前方の木の葉越しに見えた大岳に登る。そして間もなく北横岳に着き、今度は亀甲池に下り、將軍平分岐を経て竜源橋に下りた。そこからビーナスラインを歩き、一四時ちようどに駐車場に戻つた。

山日記（二〇一三年一〇月）から

水田とツバメ（一四）

佐藤 ただし

土

三月下旬頃だったと思うが、秋田市の秋田南大橋を御野場方向に車を走らせていると、河川敷の木々がかきれいに切り払われ、表面を覆っていた萱などもすっかり取り去られて、表土が剥きだしになっているのを見かけた。ローダーによって削られ、顔を出したばかりの土は新鮮な茶褐色をしていて田畑に使用するにはもってこいのように思えた。

一昨年の豪雨で、大きな被害が出た秋田市だが、その後、国交省により堤防の増設や川幅の狭くなった箇所浚渫工事が進められている。これも川の流れを良くするために、木々が切り払われ、土砂を取り去る工

事をしているのだろう。

地図を見ると、この辺りの雄物川は南東から北西に流れ、秋田大橋の辺りで西に向かい、河口へと流れている。少し上流の岩見川との合流部がゆつくりと湾曲しているため、四ツ小屋、仁井田側に土砂が堆積しやすいようだ。川によって運ばれた土砂は川の淵で水面から二メートルくらい高くなっている。大雨により、水位が上昇するたびに上流から流れてきた泥水が一時的に川幅を拡張、その後雨が止んで、水位が下がると泥水が乾いて堆積し、積もり積もってこの高さになったのだろう。秋田南大橋の橋の長さは七〇〇メートル位あるが、川幅は三分の一くらいに狭まっているため、御野場側の堤防から川の淵までは五〇〇メートル位あり、秋田大橋まで数キロにわたってこのような土砂が堆積していることになる。この少し下流の河川敷の一部は畑地になっているが、川が運んできた比較的肥沃な土が数メートルの深さまで形成されているこうした場所は、水害の危険はあるが良い作物が作られるだろうと思った。そのせいか、仁井田、四ツ小屋は野菜の産地と言われているが、土が肥えていて、水捌けも良

いこの地は畑作に適した土地なのだろう。江戸時代に
河川の直流化工事を行うまで、毎年のように発生した
洪水が人々を苦しませてきたが、同時にその恩恵とし
て、豊かな土壌がもたらされたことになる。

ただ、河川が運んだ土砂も場所によつて一様ではな
いようだ。御野場の川向にあたる豊岩で田んぼを作っ
ていると、田んぼの場所によつて土が違うことが分か
る。表面上はあまり良く分らないが、トラクターで
田んぼに入り、田起こしや代掻きをするとその違いが
よく分かる。河川から離れ、山に近い場所は粘土質と
いうか、地盤はグライ層という灰色の粘土で、その上
の作土は茶褐色の土だが、代掻きのために水を入れて
トラクターで掻き混ぜると、コーヒーにミルクを多め
に混ぜたような色に変わる。この辺の田んぼは粘土が
強いので、トラクターによる機械作業とはいえ、負荷
が多い。

一方、河川に近い田んぼは土が軽くこなれ易い。土
の色も黒っぽく、上谷地、下谷地など地名に谷地が付
いている場所もあり、元々は萱の生えた湿地だった所
を開墾して田んぼにしたものだろう。

五月に入つてトラクターで田んぼの代掻きをする
時、通常は代掻きを二度行う。荒掻きと仕上げと言つ
ているが、荒掻きは耕起した土をトラクターの爪で砕
き、水の中で細かくする作業だ。この荒掻きを行った
後に仕上げの代掻きをする。この時、田んぼの水を排水
してから仕上げを行う。このやり方だと草が沈み、良
く仕上がるからだが、排水した水は土を含んだ泥水だ。
仕上げが出来た田んぼにはまた水を入れ、田植えま
での間、練つた土の鎮圧と雑草が生えるのを防ぐ。そ
して、田植えをする前に田んぼに張つた水を落とすが、
このとき水の勢いで田んぼの土がまた流出する。こう
して流れて行った泥水が、川に集まり、下流部に堆積
するか、海に行つてしまうことになる。田の土は肥え
ているという思いがあるせいか、この泥水を流してし
まうのは、いつももったいない気がする。

こうしたことを毎年、延々とやつてきたわけだから、
極端な話、日本の耕地は毎年少しずつ低くなつてゆく
ことになる。

後藤逸男著「基本からわかる土と肥料の作り方」に
よると、土とは岩石を主原料として、水や空気、動物、

微生物など地球のあらゆるものを駆使して長い年月をかけて自然が作り上げたものだという。

地球が生まれた時、地表は岩だけだったが、太陽熱でできた割れ目にしみ込んだ水が凍って膨らみ、岩を壊したり、氷河の移動によって岩が削られ細かくなり、植物から出来た有機物が加わって土が出来たという。土はざらざらする砂とつるつるする粘土によって構成されていて、砂は岩石の風化によって細かくなつたものだが、粘土は砂の一部が水や空気との化学反応によってできたものだという。

今ここにある田畑の土も長い年月をかけて作られ、川や風や人によってここに運ばれ、私達に恩恵を与えてくれているわけだ。

五月に入り畑を見るとキャベツやタマネギ、チンゲン菜など様々な野菜が植えられている。土は野菜を区別することなく、根を守り、栄養を与えている。人もまた少し土になじめば受け入れられるように思える。

雑記 (16)

横山 仁

藤井巖喜著『紛争輸出国アメリカの大罪』（祥伝社新書、2015）に、「かつては日本の領土だった南沙諸島」として、秋田県出身の平田末治が紹介されている。初めてみる名前だったので紹介しておく。（知っている人は知っているだろうか）

「南沙諸島は実は、平田末治という日本人が発見した島々だ。

一九三七年には新南群島と名付けられ、日本の領土だった台湾・高雄市の管轄下に入った。つまり、日本の領土だったわけだ。第二次大戦中、南沙諸島には大日本帝国海軍の潜水艦基地も置かれていた。

一九二九年（昭和十四年）に刊行された文部省検定

済みの地図を見ると、新南群島という名称が載っている。これが南沙諸島である。一方、古いアメリカの地図には、平田が発見した島ということで『ヒラタズ・アイランドズ』と記されている。」

「秋田県出身の平田は、苦学して日本大学の夜間部を卒業後、台湾へ渡航。後払いの語をつけて漁船をチャーターして乗組員を雇い入れ、食糧を調達して南沙海を探検したところ、一三の小島からなる群島を発見した。平田は自ら平田群島と命名したため、昭和初期の地図にはそう記されていたが、既述したように一九三七年に新南群島として日本領土に編入された。」

ちなみに、いま韓国に不法占拠されている竹島だが、于山うざん（独島）というのは、竹島の北東にある小さい島で、「世界各地の地図で竹島（Takeshima）は日本領になっている」し、また「1951年、デインズ・ラスク米国務次官補は韓国への書簡で竹島を日本領と断言していた」というのは、水間政憲著『ひと目でわかる日韓・日中歴史の真実』（PHP研究所、2012）。

また、「一九六八年から始めた尖閣諸島海域の調査結果は、石油の推定埋蔵量一〇九五億バレル（当時、日本の消費量の約六十年分にあたる量）でした。」ことから、中国は尖閣諸島を中国領にしたかったようだが、「尖閣海域に海底石油資源が確認された後の一九七一年十二月まで、中国は歴史上一度も尖閣の領有権を主張したことはなく、日清戦争は全く関係ありません。一九五三年一月八日の『人民日報』でも、尖閣は日本領と認めていました」ということで、「外国人から尖閣の領有権を質問された時に説明してあげましょう」とある。

この本は、世界の古地図や資料などもつかって、竹島や尖閣諸島などが、日本領であることを証明している。

*

松永伍一著『日本農民詩史』下巻（一）「第四編 北方の風土に挑む」に、北本哲三・稲村啓作・押切順三らが取り上げられているのは知られているが、その

中に「戦争前夜にともに天逝してしまった」詩人として、越後谷隆治・岩渕威夫が紹介されている。中巻（一）に岩渕の「凶作」が載っていて、「秋田方言を用いて、農民の実存感覚を文字化したかれの代表作である。（註 え——はお前、ドオは親爺、ババは老婆の意）と付けられている。」と評されている。

おい、なア仲間、済まねエ

オラ泣いだんだ

え——泣いだのが

野良にへたばって、腐れて

若げ日の夢ア乾からびだんだ

枯れた葉ツババだって

見る、飛んで行きあがる

下の家のドオ河さはまって死んだじよ

上町屋のおりえババ首つったじよ

下の家のドオ何してオラ家のドオでねって、

上町屋のババ何してオラ家のババでわって、

ふんどだ、あれやオラのドオど同じせエ

あれやオラのババど同じせエ

オラも黙って年いげばあいふになるんだ。エードオ

もバハも無くて、稼ぎつれエベ

だども、仲間、生ぎでろでエ

離れねエで、なア、助け合ふベ

オラだって小作米納めれば喰ふな無くなる、

オラ納めねエがら、えーも納めなア

仲間作るべし、大勢作るべし

なア、仲間、泣ぐな、えーよ

えーもオラも同じごとせエ

土堤の蔭さだつて枯れ葉ツッパこっそり溜ってる

オラもこっそり集るべし

死ぬごと無え

生ぎでせえれば、いつが、何がの役に立つべエせエ

生ぎろでエ、なア、仲間

土堤コの蔭の葉ツッパにだつて

町場から吹がれできた葉ツッパもあるんべに……

沢賢治も紹介されている。法政大学出版社刊。

*

デイナー・スナイト (D・S) とよばれるものがある。アメリカの金融・司法・メディアを支配するユダヤ人の金貸したちで、アメリカの大統領も彼らの意に沿わないと、殺されたり (ケネディ)、失脚させられたり (ニクソン) している。ようやくトランプ大統領がでて、彼らに抵抗し始めた、というか、アメリカ・フアーストを行おうとしている。

デイナー・スナイトのことは、弓月恵太さんのツイッターでは、よく取り上げられていて (ウォール街として)、たとえば、mespesado さんは紹介している。2019/03/17 (Sun)。長いが、目にするのがほとんどないと思われるので、引用する。

(引用開始)

上巻には「農民の自主解放をめざし、ヒューマニス
ティックな視覚から詩を書いた」堀井梁歩や、また宮

最近へっぴりごしさんのところでよく紹介されてい
る弓月恵太さんのツイートですが、かなり正確を射て

いると思います：

- ▷米国共和党の中にも、未だに不法移民を受け入れたがっている奴らがいる。
- ▷彼らは、ネオコンと呼ばれ、ヒラリーとまったく同じ企業から献金を受けている。
- ▷結局、ウォール街や中国江沢民上海閥の金を最優先する米国に巢食う寄生虫である。
- ▷ブッシュ家。
- ▷イラクで多くの一般人を殺した戦争屋である。

- ▷自由民主党の中にも、マスコミに愛される人がいる。
- 【引用者注：小泉進次郎の写真が添付されている】
- ▷彼らは、野党の肩を持ち、表向き対立するように見せながら、戦後の与野党体制の維持を主張する。
- ▷日米共に、戦後レジームの中に生きる人々がいる。
- ▷それは、今の安倍トランプ体制の明確な敵となりつつある。

(中略)

- ▷司法がヒラリーの片棒かついで、犯罪容疑の捜査を阻止し、オバマ大統領がそれに加担。
- ▷これを報道しないNHKは、気が確かか？
- ▷公共放送、公正な放送どころか、完璧な米民主党の手先じゃないか。
- ▷まさに、米国民民主党に占領されたあの日のまま。
- ▷これが、戦後レジームである。

- ▷トランプ大統領が就任してから、世界中で荒れ狂うマスコミネットワーク。
- ▷ウォール街に支配され、米国民民主党の意のままに、緊縮財政、テロ、移民、資金洗浄を裏から後押ししている。
- ▷この勢力と戦うトランプ大統領に、圧力を恐れず、明確に支持を表明しているリーダーは、世界にたった2人だけだ。

(中略)

＞『ニュージャーラント大量殺人 - 国境を越える白人右翼テロ』

＞こんな記事に騙されてはいけない。

＞そもそも、テロというのは人種差別を演出するための偽装である。

＞シリア同様、テロの本質は諜報だ。

＞テロはある方向に民意を誘導するための、マスコミの道具である。

上記のツイートでもわかるように、弓月さんは、日本のサヨク（いわゆる“ぼよちん”）も、ウヨク（いわゆる“反中反韓保守”）も共に批判の対象にしています。別にウヨもサヨも批判しているからと言って論評が正当である証拠になるわけではないですが、ウヨやサヨが、まず特定のドグマを信奉していて、そのイデオロギーでしかモノが見えない、という欠点があるわけで、そのようなドグマから自由な人は、余計な先

入観がないからモノがよく見える、ということはあるでしょう。

で、そんな弓月さんですが、私の目から見ると全く問題がないわけではありません。それは「米国民民主党」にすべての諸悪の根源を押しつけていることです。確かに彼らはウォール街のカネの亡者と結託していることは間違いないところですが、それじゃあ米国における共和党と民主党の勢力地図↓

<https://www.bbc.com/japanese/46119857>

はどう解釈するのか。少なくとも大都市圏では圧倒的に民主党が強いです。じゃあ彼ら有権者がすべて諸悪の根源か、というと、そういうものでもないでしょう。そもそも「米民主党」云々という「特定の組織が犯人だ」という考え方そのものに「思考停止」の危険が潜んでいることに気付く必要があります。

私自身も経済問題で「財務省」を「しかし財務省は廃止しなければならぬ」と書いた記事でボロクソに言っていますが、それでも彼らが「諸悪の根源」であるとは思わない。彼らは「財務省設置法」と「財政法

第4条・第5条」という法律に従って肅々と業務を進めているだけに過ぎない（もちろん組織としての洗脳や統制も入っていますけど）。その、より根源のところは一般人が「政府の財政を家計と同一視する」という錯覚に囚われて、緊縮脳になっていること、更に根幹に遡れば日本人のある種の「クソまじめさ」が根っこになって「政府の財政を家計と同一視したい衝動にかられてしまう」ところに真の原因があると思っ
ます。

(引用終わり)

*

前号でコミンテルンの陰謀にふれたが、コミンテルンだけのせいにしてしまうと、彼らを操っているもの（ユダヤの金貸し）を隠蔽してしまうことになるか、というのは、元ウクライナ大使の馬淵睦夫氏。共産主義もグローバルイズムも、ユダヤ普遍思想だということなるほどとおもい、以前見つけて、あつと驚いていた文章をあげる。「隠された真実 権力者達の

系譜」のページより <https://sites.google.com/site/uranempyou/>

(引用開始)

1848年カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスが「共産党宣言」を発表した。
執筆を依頼したバールーフ・レーヴィンという人物が、マルクス宛の手紙の中で、その目的を打ち明けている。

「この新しい人類の社会組織の中で、我々ユダヤ人はいかなる国家に属することもなく、また他の民族からの何の抵抗を受けることなくして指導勢力となり、やがてその影響は全世界に及ぶことになるでしょう。そして、もし彼らの中の何人かの賢者が、これら労働大衆のうちに確固たる指導権を打ちたてることに成功するなら、プロレタリアの勝利によって次々に世界共和国の一部となっていく諸国家の支配権は、これらプロレタリアを指導する我々ユダヤ人の手に容易に収めることができます。要するに、プロレタリアの勝利は私有財産の廃止をもたらし、こうして公有財産となった

他民族のあらゆる私有財産は、公有財産を管理するユダヤ人の支配下に入るので。かくして我々ユダヤ人のメシアが到来するとき、ユダヤ人は全世界の民の財産をことごとくダビデの星の下につかさどるであろうと言いつた。』

(引用終わり)

つまり、ロシア革命とは、民衆とは関係がない、ユダヤ人の革命だったことである。レーニン、トロツキーなど、ほとんどユダヤ人たちである。

以下、「フランクフルト学派の批判理論、隠れマルクス主義の恐ろしさ」ブログより。(http://aikokutaro.blog.fc2.com/)

(引用開始)

神聖同盟以来、ロシア皇帝とユダヤ系銀行家の対立が続いていたことがロシア革命の背景にあります。ロシアが革命のターゲットになった直接的な理由は、帝政ロシアによるユダヤ人に対する迫害です。当時のロ

シアには多くのユダヤ人が生活していましたが、彼らはロシア皇帝に抑圧、迫害されていました。ロシアでのユダヤ人虐殺は「ポグロム」として知られています。

ロシアに住むユダヤ人を迫害から解放するには革命を起こさなければならず、ユダヤ人たちは考えました。ロシアにはナロードニキ（人民主義者）などの革命家がたくさん出てきましたが、その多くはユダヤ人です。

レーニンは母方の祖父がユダヤ人で、レーニン自身は四分の一ユダヤ人。トロツキーは両親ともユダヤ人。カーメネフ、ジノヴィエフ、ラヂック、スヴェルドルフ、リトヴィンノフなど、当時の指導者の八割以上はユダヤ人でした。

しかし、ユダヤ人はロシアの人口の僅か数パーセントに過ぎない少数民族でした。その少数民族が革命を成功させて政権をとることができたのは、背後に支援する勢力があったからです。革命運動には、資金も武器も人も必要です。支援する人たちがいなければ、革命

は成功しませんでした。ロシア革命を支援したのは、ヨーロッパやアメリカのユダヤ系財閥でした。

馬淵睦夫氏『「反日中韓」を操るのは、じつは同盟国・アメリカだった！』より

(引用終わり)

日露戦争で日本に金を貸したのも、シフというユダヤ人で、前にも書いたように、この借金を返し終わったのが、昭和60年代であった。そして、このユダヤ人は、出エジプト記にでてくるユダヤ人ではなく、アシケナージ・ユダヤ人(偽ユダヤとも)とよばれる、8世紀に国ごとユダヤ教に改宗した、コーカサスのハザール王国の子孫である。

*

いろいろ知らない戦後史があるようで紹介する。「放知技」の Conganas さん、2019/03/20 (Wed) より。

(引用開始)

朝鮮戦争勃発後、1951年9月8日にサンフランシスコ講和条約で日米平和条約、日米安保条約に署名、52年2月28日に日米行政協定(日米地位協定)が結ばれ52年4月28日から効力発生した。

講和の舞台裏で米国は非公表裡に日本の戦後復興資金30億ドル(現在価値でおおよそ30兆円)を長期融資することを決定した。

日本政府は復興融資の担保に国防権、電波権、航空管制権を米国に差し出すという枠組みである。

この資金を実際に融資した金主は英サッスーン(HSBC)基金で、米国はこの長期融資を裏書き(政府保証)しただけだ。

国民にはとても発表できないような内容の公民間の約束を密約という。

日米安保・地位協定はこの密約の氷山の一角だ。

いずれにしても米国は巧妙な方法で日本から独立国家に必須の三権を取り上げたわけだ。

戦後復興融資は 60 年ローンだった。日本政府は約束通りこれを 2012 年 4 月に完済した。

金主のサッスーンは大儲けしたのかどうかは不明だ。なぜなら利息は当然複利だろうがインフレで相殺されるから。

いずれにしても日本は 2012 年に米国から融資の担保として押さえられていた国防権、電波権、航空管制権を実質的に取り戻していたのだ。

どうぜん密約上は日米安保条約、日米地位協定は融資完済後に失効させる約束であろう。

国防権についてもトランプ政権の誕生で在日米軍撤退も米国政府の政治目標となっているし、安倍さんは新

防衛計画大綱を打ち出した。

野田政権の面妖な自滅解散選挙で第 2 次安倍政権が成立したのはまさに 2012 年末。

安倍内閣はただちに 4 月 28 日を日本国主権回復の日と定め 13 年から施行した。

(引用終わり)

*

「大地震にも備え消費増税を、『実感なき景気後退』なら延期不要—吉川氏」というのは、「アール・ムンバー」2019 年 5 月 30 日。この吉川というのは、へっぴりごじさんがいう、「【吉川洋立正大学長】『東日本震災の復興増税』という基地外政策を推進した、正真正銘の〇ホ・・・2019 年 05 月 31 日(金)」。

ついでに、東日本大震災の増税をきめた財務省のボチ、御用学者を紹介する。〈美代子、石を投げなさい！(◎荒川洋治)〉、〈こいつらは、人間のクズや(◎百田尚樹)〉。スペースの関係上、共同提言者のみ(2011 年 6 月

あとがき

◆伊藤信吉『詩のふるさと』（新潮文庫）をみていて、石川啄木のページのはずなのに国木田独歩が出てきて、独歩の詩を褒めている。？と試してみたら、数ページ落丁していた。ちょうど、啄木の詩があり、それに続くように独歩の詩があり、そのまま啄木の詩だとおもっていたのだった。数ページ、図書館から借りてコピーした。ところで連合が消費増税を政府に要請した(0531)という。いまさらながら、クズだな、百田さん。(J)

◆数ヶ月前から何回かに分けてレコードを処分した。先日はその延長で約40年も前に買ったレコードプレイヤーとスピーカを解体処分。解体は童心にかえったようで結構楽しかった。さて次は……。(B)

◆令和()年に018を足すと西暦年が算出されるというのでやってみると確かに確かに、これは面白い。ということは、たとえば西暦2033年は令和何年？……逆算して018を引き算するから……。令和15年。ヤッター。しかし、その頃オレも海市の同人たちも生きているか？この018の算式を使う時は気をつけないと。(S)

◆今は人が住んでいない家の玄関脇の木にキジバトが巣を作り、ヒナが2羽巣立って行った。木の葉の陰で何時間も卵を温めている親鳥を2階の廊下の窓から望遠鏡で見れていたが、鳥たちのこうした行為を本能として身に着けていることに驚かされる。(T)

「海市」第16号

2019年6月16日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方

15日10:00現在) (敬称略) 伊藤隆敏(東京大学) / 伊藤元重(東京大学) / 浦田秀次郎(早稲田大学) / 大竹文雄(大阪大学) / 齋藤誠(一橋大学) / 塩路悦朗(一橋大学) / 土居文明(慶応義塾大学) / 樋口美雄(慶応義塾大学) / 深尾光洋(慶応義

塾大学) / 八代尚宏(国際基督教大学) / 吉川洋(東京大学) (伊藤隆敏のHPより)

三橋貴明氏はこのたびも「財務省の飼いやに財政破綻詐欺師である吉川洋」とブログ0531で。